

■研究推進委員会 活動計画書

提出日：2022年12月1日

名 称	グリーンインフラ研究推進委員会
委員長	木下剛（千葉大学大学院園芸学研究科）
幹 事	橋本慧（株式会社プレック研究所） 連絡先 e-mail アドレス：k-hashimoto@prec.co.jp
その他 構成員	一ノ瀬友博（慶応義塾大学），岩崎寛（千葉大学），植田直樹（三菱地所設計），上野裕介（石川県立大学），上原三知（信州大学），片桐由希子（首都大学東京），加藤禎久（岡山大学），木田幸男（東邦レオ），小林竝一（Kobayashi Design），近藤真（パシフィックコンサルタンツ），佐藤留美（NPO birth），竹内智子（千葉大学），武田史朗（立命館大学），津久井文（国土交通政策研究所），寺田徹（東京大学），福岡孝則（東京農業大学），村上暁信（筑波大学），山田順之（鹿島建設） 五十音順
目 的	<p>グリーンインフラの社会実装を推進するための学術的支援を行うことを本研究推進委員会の目的とする。</p> <p>グリーンインフラの概念及び実践は、造園分野においては必ずしも新しいものではないが、グリーンインフラの取り組みにおいては造園学の知見や技術が最大限に生かされてしかるべきである。グリーンインフラによる持続可能な地域社会の形成に向けた取り組みが国際的、国内的にも注目を集める中で、造園学の立場からグリーンインフラの取り組みに明確な概念規定を与えるとともにその評価手法を明確化することは学会としての使命と考えられる。</p> <p>そこで、本研究推進委員会は、産官学民の関係者がフラットに議論し活動できるプラットフォームを提供し、そこでの議論や活動の成果を社会に向けて戦略的に発信することで、上記目的の達成を目指す。</p>
活動計画 及び 想定される 成果 (1年目)	<p>2021年度～2022年度は（11月30日現在）、日本都市計画学会研究交流分科会「グリーンインフラの計画的展開と社会実装研究会」（一ノ瀬友博代表、本研究推進委員会委員兼務）との共催により、2022年度 JILA 全国大会研究推進委員会フォーラム「流域治水とグリーンインフラ」を企画・開催した。そこでは、流域治水という今日的な課題に資するグリーンインフラの取り組みについて、河川政策、緑地政策、農政、環境政策の専門家を招いて分野横断的な議論を行った。</p> <p>現在、これまでの成果を取りまとめ、グリーンインフラの概念と評価に関する学術書の出版に向けた準備作業を、グリーンインフラの計画的展開と社会実装研究会と共同で進めている。2023年度はこの出版企画が主たる活動内容となり、年度内の刊行を目指す。諸事情により中断していた、委員による最新の研究活動および実践活動のレビュー（委員会）を復活させ、必要に応じ出版コンテンツに含める。また、2023年度も研究会主催のオンラインセミナーのほか、全国大会の研究推進委員会フォーラムの企画・開催を予定している。</p>
(2年目)	<p>2024年度は、前年の出版物をもとにした公開シンポジウム等を企画するほか、引き続き実例を通じたグリーンインフラの概念と評価に係るデータを蓄積し、初年度と同様の学会等の場を通じて発表する。また、6ヶ年の活動の成果を報告書としてとりまとめ、ウェブサイト等で公表したい。</p> <p>以上の活動を通じ、多様化するグリーンインフラ概念に対し、造園学の立場から一定の学術的見解を与えることを最終成果とする。</p>